

研究課題名	日本人膜性腎症患者における抗 Thrombospondin type-1 domain-containing 7A 抗体の関与の割合
研究責任者	安田 日出夫
研究機関名	浜松医科大学第一内科（腎臓内科）
研究目的と意義	<p>膜性腎症はわが国および世界の成人ネフローゼ症候群患者の主要な原因疾患であり、特発性と二次性に分けられる。特発性膜性腎症の原因抗原として 2009 年 Phospholipase A2 receptor (PLA2R) が初めて報告され、諸外国からの抗 PLA2R 自己抗体陽性膜性腎症患者の割合は 70% と高い。一方、わが国では抗 PLA2R 自己抗体陽性率は約 50% と低く、PLA2R 以外の原因抗原が示唆されてきたが、今までに PLA2R 以外の原因抗原は不明であった。</p> <p>2014 年新たな特発性膜性腎症の原因抗原として Thrombospondin type-1 domain-containing 7A (THSD7A) が欧米および米国より報告された。</p> <p>今回、わが国での THSD7A 関連特発性膜性腎症の割合を検討することで、原因抗原により治療反応性や予後が異なるかどうかを今後明らかにする可能性がある。</p>
研究期間	西暦 2015 年 3 月（倫理委員会承認後） ～ 2016 年 3 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん： 18 歳以上の当院にて 1980 年 4 月から 2015 年 3 月までに腎生検を行い、膜性腎症と診断された患者さん。 対照群として膜性腎症以外の腎疾患の患者さん。</p> <p>●研究に使用する試料： (1) 腎生検にて採取した腎組織のパラフィン包埋ブロック (2) 腎生検にて採取した腎組織の凍結ブロック (3) 対象患者さんの診療情報</p> <p>●研究方法 腎生検組織を用いて抗 IgG4 抗体、抗 PLA2R 抗体、抗 THSD7A 抗体を用いて免疫組織染色を施行する。 特発性と二次性膜性腎症を分けるために二次性疾患の除外検査の記録を診療情報より収集する。</p>

	また、原因抗原による治療反応性、予後、臨床所見の違いの有無を確認するために、腎生検時の血液、尿所見、治療経過を診療情報から収集する。
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：第一内科（腎臓内科） 担当者：岩倉 考政 TEL：053-435-2261 FAX：053-434-9447 E-mail：tkms0421@hama-med.ac.jp

医学系研究に関する情報公開文書